

哲学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講セメスター	開講曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
哲学思想概論	デカルト『省察』入門	2	城戸 淳	3	前期 月曜日 4講時	
哲学思想概論	近代イギリス哲学史	2	城戸 淳	4	後期 月曜日 3講時	
哲学思想概論	古代哲学史	2	荻原 理	4	後期 木曜日 2講時	
現代哲学概論	言語哲学入門	2	原 塑	3	前期 火曜日 1講時	
現代哲学概論	身体と他者の哲学	2	直江 清隆	3	前期 水曜日 2講時	
現代哲学概論	科学/技術の哲学	2	直江 清隆	4	後期 水曜日 2講時	
哲学思想基礎講読	フィヒテの教育哲学的著作を読む	2	嶺岸 佑亮	3	前期 木曜日 3講時	
哲学思想基礎講読	哲学研究のレッスン(1)	2	原 塑	3	前期 水曜日 3講時	
哲学思想基礎講読	哲学研究のレッスン(2)	2	城戸 淳.直江 清隆	4	後期 水曜日 3講時	
哲学思想基礎講読	ヘーゲル『法哲学講義』の良心論を読む	2	嶺岸 佑亮	4	後期 木曜日 3講時	
哲学思想各論	哲学的論理学入門 Introduction to Formal Logic	2	大森 仁	5	前期 火曜日 4講時	
哲学思想各論	哲学的論理学入門	2	大森 仁	6	後期 火曜日 4講時	
哲学思想各論	画像表象に関する分析哲学的研究	2	清塚 邦彦	集中(6)	集中講義	
生命環境倫理学各論	研究の倫理とコミュニケーション	2	原 塑	6	後期 金曜日 5講時	
哲学思想演習	生命の哲学	2	直江 清隆	5	前期 火曜日 3講時	
哲学思想演習	現象学研究	2	直江 清隆	5	前期 火曜日 5講時	
哲学思想演習	ヘーゲル『精神現象学』の「理性」章を読む	2	嶺岸 佑亮	5	前期 水曜日 3講時	
哲学思想演習	カント『純粹理性批判』研究	2	城戸 淳	5	前期 水曜日 5講時	
哲学思想演習	カントの目的論	2	城戸 淳	5	前期 木曜日 2講時	
哲学思想演習	アーレント『精神の生』講読	2	森 一郎	5	前期 金曜日 3講時	
哲学思想演習	アリストテレス『エウデモス倫理学』を読む	2	文 景楠	5	前期 金曜日 3講時	
哲学思想演習	科学的理解1	2	原 塑	5	前期 金曜日 4講時	

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講セメスター	開講曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
哲学思想演習	新プラトン主義の秘儀論を読む	2	荻原 理	6	後期 月曜日 4講時	
哲学思想演習	・技術の哲学	2	直江 清隆	6	後期 火曜日 3講時	
哲学思想演習	現象学研究	2	直江 清隆	6	後期 火曜日 5講時	
哲学思想演習	ヘーゲル『精神現象学』の「自己意識」章を読む	2	嶺岸 佑亮	6	後期 水曜日 3講時	
哲学思想演習	カント『純粹理性批判』研究	2	城戸 淳	6	後期 水曜日 5講時	
哲学思想演習	アリソン『カントの超越論的觀念論』を読む	2	城戸 淳	6	後期 木曜日 2講時	
哲学思想演習	科学的理解2	2	原 塑	6	後期 金曜日 4講時	
生命環境倫理学演習	メディアと情報倫理	2	原 塑	5	前期 金曜日 5講時	

科目名：哲学思想概論／ Western Philosophical Thought (General Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

セメスター：3 **単位数：**2

担当教員：城戸 淳

コード：LB31301, **科目ナンバリング：**LHM-PHI205J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：デカルト『省察』入門

2. Course Title (授業題目) : Descartes' Meditations on First Philosophy

3. 授業の目的と概要： デカルトの『第一哲学の省察』(1641年)は、神の存在証明と心身(物心)二元論の確立を目標とするが、さらにそれを目がけて、普遍的懐疑、自己意識と精神の存在、誤謬と自由意志、物体の本質と存在証明、心身結合と人間の生といった幅広いテーマが、おそるべき速度と密度で論じられている。

講義では、『省察』本編のテクストを読みすすめるとともに、そこに畳みこまれた哲学的諸問題を引き出し、ときには大きく脱線して歴史のあるいは問題分析的に解説を試みつつ、またテクストに戻るというしかたで、デカルト哲学への導入を試みる。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : Reading Descartes' Meditations on First Philosophy and examining the philosophical topics in them.

5. 学習の到達目標： 哲学文献の基本的な読解力を身につける。デカルトに即して哲学の基本的な諸問題を学び、みずから思考し、表現する力を養う。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : Students will learn to read classical texts and to examine their philosophical topics.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. デカルトとその時代 —『省察』への導入
2. 懐疑の極限にいどむ — 第一省察 (1)
3. 普遍的な懐疑は可能か — 第一省察 (2)
4. 「私はある」の発見 — 第二省察 (1)
5. 精神への精錬 — 第二省察 (2)
6. 蜜蠅の分析 — 第二省察 (3)
7. 神の存在証明と観念の表現的実在性 — 第三省察 (1)
8. 無限に溢れゆく他者としての神 — 第三省察 (2)
9. 人はなぜ誤謬に陥るか — 第四省察 (1)
10. 人間の行為と自由 — 第四省察 (2)
11. 物体即延長の科学哲学 — 第五省察 (1)
12. 神の存在論的証明 — 第五省察 (2)
13. 心身の実在的区別 — 第六省察 (1)
14. 心身の実体的結合と物体の存在 — 第六省察 (2)
15. 哲学と生 — 第六省察 (3)

8. 成績評価方法：

数回の小課題と期末レポートによって評価する

9. 教科書および参考書：

教科書 ルネ・デカルト著『省察』山田弘明訳、筑摩書房(ちくま学芸文庫)、2006年。

(生協に指定しております。講義に持参すること。)

10. 授業時間外学習：『省察』を読んでから講義に臨み、講義では思考を同期させ、講義のあとは内容を反芻して自分の言葉で咀嚼すること。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：哲学思想概論／ Western Philosophical Thought (General Lecture)

曜日・講時：後期 月曜日 3 講時

セメスター：4 **単位数：**2

担当教員：城戸 淳

コード：LB41302, **科目ナンバリング：**LHM-PHI205J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：近代イギリス哲学史

2. Course Title (授業題目) : History of Modern British Philosophy

3. 授業の目的と概要： ベーコンからリードにいたる近代イギリス哲学史は、その思考の振幅の拡がりと、歴史的展開の過酷さの点で、哲学史におけるスペクタクルのひとつである。近代のイギリス哲学は、学問の大刷新の号令と、徹底的な唯物論から始まって、観念モデルの経験主義の諸段階をへて、ときに純粋なスピリチュアリズムの形而上学へと陥りつつも、緩和された懷疑論とコモン・センスの哲学へと収束した。その歩みを辿ることは、歴史的に繰り広げられた哲学的思考を追体験することになる。

講義では、16世紀から18世紀にかけての近代イギリスの哲学について、主要な哲学者の学説を検討しつつ、その歴史的な展開をたどる。また古代・中世哲学の遺産の継承、同時代のフランスやドイツの哲学との関わり、現代にまで残された諸問題などにも論及する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : The lectures will discuss the historical development of British philosophy in the modern period (roughly from the sixteenth to the eighteenth centuries), examining the theories of the major philosophers.

5. 学習の到達目標：近代イギリス哲学の諸論点を哲学的に考察する。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : A philosophical examination of various issues in modern British philosophy.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1 序論

2～3 ベーコン——学問の大刷新

4～5 ホップズ——唯物論の形而上学

6 カドワースとモア——ケンブリッジ・プラトニストの哲学

7～8 ロック——経験主義の観念理論

9 補遺1 人格同一性をめぐる展開

10～11 バークリー——非物質論の形而上学

12 補遺2 人間本性への眼差し——イギリスの道徳哲学

13～14 ヒューム——懷疑主義と自然主義

15 リード——コモン・センスへの回帰

8. 成績評価方法：

数回のコメントと期末レポートによる。

9. 教科書および参考書：

引用資料集を掲載する。その他の参考文献は授業中に紹介する。

10. 授業時間外学習：授業で紹介した哲学書などを自ら読むこと。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：哲学思想概論／ Western Philosophical Thought (General Lecture)

曜日・講時：後期 木曜日 2 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：荻原 理

コード：LB44203, 科目ナンバリング：LHM-PHI205J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：古代哲学史

2. Course Title (授業題目) : History of Ancient Philosophy

3. 授業の目的と概要：・古代ギリシャ哲学のうち、ミレトス学派からソクラテス、プラトン、アリストテレスを経てヘレニズム哲学、プロティノスまでの主要な論点を学び、そのいくつかについては自分なりに考えてみることで理解を深める。

・講義だが、質問・意見を積極的に出してもらう（質疑応答は哲学の問題や主張を理解していくための重要なプロセスなので）。わかりにくいくらいはできればその場で質問してほしいが、次回（以降）でもよい。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : The objective is to learn the basics about ancient Greek philosophy from Milesian School to Socrates, Plato, and Aristotle to Hellenistic philosophers and Plotinus. Basically a lecture, but questions will be very welcome.

5. 学習の到達目標：・ミレトス学派からプロティノスまでの西洋古代哲学史の主要な論点について正確に説明できるようになる。

・いくつかの論点については、自分なりに論じることができるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : To become able to explain basic ideas of Greek philosophers from Milesians to Plotinus.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

【注意：質疑応答等の成り行きによっては、下記の計画通りに行かないことがあり得る。】

1. 授業全体へのイントロ

ミレトス学派、クセノファネス

2. ピュタゴラス、ヘラクレイトス、パルメニデス（1）

3. セノンのパラドクス、パルメニデス（2）

4. エンペドクロス、アナクサゴラス、デモクリトス。プロタゴラス、ゴルギアス

5. ソクラテス

6. プラトン（1）

7. プラトン（2）

8. プラトン（3）

9. アリストテレス（1）

10. アリストテレス（2）

11. アリストテレス（3）

12. エピクロス派

13. ストア派

14. 懐疑派。プロティノス

15. 授業のまとめ

8. 成績評価方法：

ミニッツ・ペーパー

9. 教科書および参考書：

資料はクラスルームで配布する。

参考書は随時紹介する。

10. 授業時間外学習：前回の授業の内容について、わかりにくかった点を質問の形に整理しておく。

(他にも、授業中折に触れて学習課題を指定することがある。)

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "O" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

予備知識は特に必要ない。

科目名：現代哲学概論／Contemporary Philosophy (General Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 1 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：原 塑

コード：LB32103, 科目ナンバリング：LHM-PHI206J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：言語哲学入門

2. Course Title (授業題目) : Philosophy of Language

3. 授業の目的と概要：20世紀以降、英米圏を中心に展開している分析哲学は、哲学的問題への取り組みが言語を用いてなされていることに着目し、言語の働きを分析することで哲学的問題に答えようとする。このため、分析哲学では、言語の基礎的現象、例えば、言語表現が何かを指示したり、意味したりすることができるのかを明らかにすることが重要な課題となった。この講義では、言語の指示や意味、あるいは発話の理解といったテーマに関して、分析哲学で行なわれてきた議論を概観する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : This lecture reviews the discussions that have been conducted in analytical philosophy on topics such as reference and meaning.

5. 学習の到達目標：1. 概念や論証を分析する技術を習得する。

2. 指示や意味についての哲学的議論を理解する。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : 1. To acquire the skills to analyze concepts and arguments.

2. To understand philosophical arguments about reference and meaning.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は、対面とオンライン（オンデマンド型）を併用して実施する。

以下の項目を順番に講義する。

1. はじめに

2. 指示と意味

3. 記述の理論 1

4. 記述の理論 2

5. 固有名 1

6. 固有名 2

7. 様々な真理概念 1

8. 様々な真理概念 2

9. 可能世界 1

10. 可能世界 2

11. 名指しと必然性 1

12. 名指しと必然性 2

13. 検証主義

14. 真理条件説

15. まとめ

8. 成績評価方法：

課題の提出 (60%)、テスト (40%)

9. 教科書および参考書：

服部裕幸『言語哲学入門』2003年、勁草書房

Papineau, D. 2012. Philosophical Devices: Proofs, Probabilities, Possibilities, and Sets. Oxford University Press.

10. 授業時間外学習：授業教材は、Google Classroom の授業用サイトにアップロードされます。授業内容を理解するために参考書を見てみてください。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：現代哲学概論／Contemporary Philosophy (General Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 2講時

セメスター：3 **単位数：**2

担当教員：直江 清隆

コード：LB33201, **科目ナンバリング：**LHM-PHI206J, **使用言語：**日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

- 1. 授業題目：**身体と他者の哲学
- 2. Course Title (授業題目) :**Philosophy of the Embodiment and the Other
- 3. 授業の目的と概要：**この授業では、近現代の大陸哲学の基本概念を学ぶ。その際、歴史順に概観するのではなく、「生命と生」「身体」「他者理解」などの重要な問題に沿って検討を進める。
- 4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) :**This course deals with the basic concepts of modern and contemporary continental philosophy, by picking up some important issues such as "life," "body/embodiment" "understanding others," and so on.
- 5. 学習の到達目標：**現代哲学の意義について理解し、自分なりの考えを持てるようになる。
- 6. Learning Goals(学修の到達目標) :**This course provides students with opportunities to understand the importance of philosophical thinking. It is also designed to help students gain the perspective needed to describe it in their own words.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

現代哲学の話題について学びつつ、自ら哲学するための手がかりを見つける。哲学者としてはレーヴィット、ヘルダー、ヘーゲル、ディルタイ、ハイデガー、ガダマー、フッサールなどが取り上げられる予定です。

1. 哲学はなにではないのか
2. 懐疑と相対主義(1)
3. 懐疑と相対主義(2)
4. 身体という謎(1)
5. 身体という謎(2)
6. 世界と環境世界
7. 他者という謎 (1)
8. 他者という謎 (2)
9. 他者という謎 (3)
10. 合理主義とロマン
11. 生活世界と学問 (1)
- 12 . 生活世界と学問 (2)
13. 異なるもの理解 (1)
14. 異なるもの理解 (2)
- 12.12.12. 異なるもの理解 (1) (1) (1) (1)
13. 異なるもの理解 (2)
13. 言語、身体と社会(1)
14. 言語、身体と社会(2)
15. まとめ

【必要に応じて、一部内容・順番を差し替えることがあります。】

コメントメーパーにより、議論の要点と自分の考えを簡単にまとめ、最終的には、レポートが書けるだけの能力を身につけることを目指します。また、今年の授業では毎回ワークシートを用意し、短いテキスト、そのテキストが書かれた背景、とのテキストで問われていること、テキストの主張、その主張に対する批判、現代の問題との繋がりでどう考えるかなどについて説明し、自ら考え、議論するようにします。

8. 成績評価方法：

平常点 30% レポートなし試験（問題は事前公開） 70%

9. 教科書および参考書：

参考書：新田義弘『哲学の歴史』（講談社現代新書）

授業で扱った事柄が同一位置にあるかを概観するのに便利。参考書は随時授業中に紹介します。

10. 授業時間外学習：授業時に参考資料を配付し、参考文献を紹介するので、それらを再読し、上記教科書で位置づけを理解し、自分なりに捉え直してみる作業を繰り返して下さい。

また、その内容に基づいて予習を指示することもあります。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：現代哲学概論／Contemporary Philosophy (General Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：直江 清隆

コード：LB43201, 科目ナンバリング：LHM-PHI206J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：科学/技術の哲学

2. Course Title (授業題目) : Introduction to the philosophy of science and technology

3. 授業の目的と概要：科学技術と人間の関わりをどう捉えるかは今日ますます重要な問いとなっている。この授業では技術哲学の基本的な概念と原理を学ぶとともに、技術哲学に関わる今日の主要な社会問題を紹介する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : How to understand the relationship between science, technology has become an increasingly important issue today. This course deals with the basic concepts and principles of philosophy of technology . It also explains some important social issues of philosophy of technology.

5. 学習の到達目標：技術哲学の基本的な事項を理解し、その個別の問題に対して自分なりに考えることができる

6. Learning Goals(学修の到達目標) : After taking this course, participants will be able to :

- Explain the essential concepts of philosophy of technology
- Discuss the specific problems of philosophy of technology.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

技術哲学の基礎とともに、その具体的あり方、現在の諸問題について順次検討する。基本的に講義とディスカッションで構成するが、必要に応じてビデオの使用、論文紹介を行う。

第1回 技術はなぜ哲学の対象となるのか

第2回 技術と政治

第3回 技術と歴史

第4回 技術とエンジニアの視点

第5回 AI

第6回 ロボット

第7回 テレプレゼンス

第8回 スマート農業

第9回 宇宙開発

第10回 都市

第11回 遺伝子ドライブ

第12回 ゲノム編集作物

第13回 原子力発電

第14回 気候工学

第15回 まとめと討論

【最新のテーマを取り入れるため、一部内容を変更することがあります。】

8. 成績評価方法：

レポート 80% (授業中に実施する小レポートを含む) 授業への参加 20%

9. 教科書および参考書：

金光秀和、吉永明弘編『3STEPシリーズ 技術哲学』昭和堂（2024年6月刊）

10. 授業時間外学習：上記テキストをもとに基本事項を解説するので必ず振りかえってみていただきたい。技術哲学に関連する生命倫理学や環境倫理学、AI の倫理学の文献もたくさんあるので、進んで取り組んで欲しい。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：哲学思想基礎講読／Western Philosophical Thought (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 木曜日 3 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：嶺岸 佑亮

コード：LB34303, 科目ナンバリング：LHM-PHI214J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：フィヒテの教育哲学的著作を読む

2. Course Title (授業題目) : Reading Fichte's Writings of Educational Philosophy

3. 授業の目的と概要： フィヒテの『学者の使命』(1795年)は、学者とは何であるかという観点から、教育哲学の議論を開いた古典的なテクストとしてきわめて重要です。それと同時に、前年の『全知識学の基礎』(1794年)で提示された純粋な自我の概念について、より広い視点から考察がなされており、フィヒテ哲学のみならず、近代ドイツ哲学を理解する上で非常に有用なものだといえます。さらに『学者の使命』では、学者が何であるかという問題が社会や文化との関係から論じられており、非常に多様な層から問題に光を当てています。

この講読では、フィヒテのテクストを精読することを通じて、近代ドイツ哲学における基本問題を確認するとともに、その独自の展開をテクストに即して読み解くことを目指します。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : In this course, we are going to read some philosophical writings of Johann Gottlieb Fichte (1762~1814) concerning the problem of education and culture in its original German text. By reading the text, we are going to tackle with the problem of the education on the one hand, and that of the cultivation of human being. Fichte's thought had great influences on the contemporary philosophers and artists. By reading and discussing this text, we will attain the foundation to understand the typical topics and manner of the modern philosophy.

5. 学習の到達目標：・ドイツ語で書かれたテクストを自分で読むことが出来るようになる。

・自分自身で問題を辿り直し、主体的に考え抜く態度を身に着ける。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : ・To read the original German text by yourself and realize what is discussed there.

・To pursue what is the main point in the text and so attain the attitude to think over

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：イントロダクション（授業内容・方法の説明、今後の進め方の確認）

第2回：『学者の使命』第1講の読解（1）——人間の使命とは——

第3回：第1講の読解（2）——存在をめぐって——

第4回：第1講の読解（3）——理性的であることと有限であること——

第5回：第1講の読解（4）——文化の役割とは——

第6回：第2講の読解（1）——目的概念について——

第7回：第2講の読解（2）——自己同一性について——

第8回：第2講の読解（3）——因果性と相互作用——

第9回：第2講の読解（4）——社会における相互承認——

第10回：第2講の読解（5）——完全性をめぐって——

第11回：第2講の読解（1）——自然と道徳——

第12回：第2講の読解（2）——目標へ向かっての無限な接近——

第13回：第2講の読解（3）——自由であることと〈～べきである〉こと——

第14回：第2講の読解（4）——純粋な自我と個人——

第15回：全体のまとめ

8. 成績評価方法：

出席および平常点（毎回の誤読とその準備、文法的分析、討論への参加）

9. 教科書および参考書：

テクストはコピーを配布します。以下を使用予定です。

J. G. Fichte - Gesamtausgabe der Bayerischen Akademie der Wissenschaften. Hrsg. v. R. Lauth u. H. Jacobs, Stuttgart - Bad Cannstatt 1964ff.

10. 授業時間外学習：各回の予習として、1頁程度の予習が必要です。

[Students are required to prepare 1 page for each class]

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：哲学思想基礎講読／ Teaching of Japanese Language (Introductory Practice)

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時

セメスター：3 **単位数：**2

担当教員：原 塑

コード：LB33305, **科目ナンバリング：**LHM-PHI214J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：哲学研究のレッスン (1)

2. Course Title (授業題目) : Western Philosophical Thought (Introductory Reading)

3. 授業の目的と概要： この演習は、哲学・倫理学の文献を正確に読み解し、そこで展開されている議論をまとめ、それにもとづいて討論したり発表したりする力を身につけるためのものです。

最初の 10 回程度は、教員が選んだテキストをもとに、適宜講義を挟みつつ、レジュメを作成したり、テキストをもとに議論したりする訓練を行います。倫理学の村山先生と哲学の原が、ほぼ半分ずつ担当します。また、最後の 5 回程度は、みなさん自分の問題関心にもとづいた発表を行っていただき、それをもとに議論します。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : We shall read a couple of chapters from introductory texts of philosophy and ethics. Previously appointed participants will make a brief report on an assigned passage and then all of us will discuss it. In the last four sessions previously appointed participants will give a presentation on the topic of their choosing and then all of us will discuss it.

5. 学習の到達目標：(1) 哲学・倫理学の文献を読み、議論をまとめ、それにもとづいて討論する能力を身につける。

(2) 哲学・倫理学の文献を踏まえつつ、自分の問題関心で議論を展開することができるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : Become able to understand and discuss texts of ethics.

Become able to find and discuss topics in ethics.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業の実施形態：対面授業のみ

この科目では Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。

1. ガイダンス

2. 哲学の入門的テキストの講読(1)

3. 哲学の入門的テキストの講読(2)

4. 哲学の入門的テキストの講読(3)

5. 哲学の入門的テキストの講読(4)

6. 哲学の入門的テキストの講読(5)

7. 哲学の入門的テキストの講読(1)

8. 哲学の入門的テキストの講読(2)

9. 哲学の入門的テキストの講読(3)

10. 哲学の入門的テキストの講読(4)

11. 哲学の入門的テキストの講読(5)

12. 発表と討論(1)

13. 発表と討論(2)

14. 発表と討論(3)

15. 発表と討論(4)

8. 成績評価方法：

報告、討論、数回のコメントペーパーによる平常点 (60%) と、最後の発表なしレポート (40%) で評価します。

9. 教科書および参考書：

必要なものは配布します。

参考書は演習内で指示します。

10. 授業時間外学習：事前にテキストを読み理解に努めてください。報告担当になったときには、事前に教員および TA に相談し、レジュメについてアドバイスを受けるようにして下さい。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

具体的な進め方は初回の授業のときに説明します。

哲学専修の 2 年生はこの水 3 の授業を必ず履修するようにしてください。他の専修の方は事前または初回時に教員とご相談ください。

科目名：哲学思想基礎講読／ Western Philosophical Thought (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 水曜日 3 講時

セメスター：4 **単位数：**2

担当教員：城戸 淳・直江 清隆

コード：LB43304, **科目ナンバリング：**LHM-PHI214J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：哲学研究のレッスン(2)

2. Course Title (授業題目)：Philosophy for Beginners 2

3. 授業の目的と概要： 前期の「哲学研究のレッスン（1）」の続きです。哲学専修の2年生は必ず前期・後期ともに履修して下さい。（倫理学専修の方は「倫理学研究のレッスン」の欄をご覧下さい。）

目的は、哲学・倫理学の文献を正確に読解し、そこで展開されている議論をまとめ、それをふまえて討論したりする力を身につけることです。

最初の5～10は英語のテクストを用います。折にふれて教員の解説を聞きながら、担当箇所のレジュメを作成し授業時に発表したり、テキストをふまえた討論をしたりします。最後の4回ほどは、担当者が自分で決めたテーマについて発表を行い、みなでそれをめぐって議論します（前期・後期を通じて1人1回発表して頂きますので、後期は、前期に発表しなかった方に発表して頂くことになります）。今学期発表をしない人には、自分で決めたテーマについての学期末レポートを提出して頂きます。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：We shall read a couple of chapters from Simon Blackburn's THINK in the first ten sessions except the very first. Previously appointed participants will make a brief report on an assigned passage and then all of us will discuss it. In the last four sessions previously appointed participants will give a presentation on the topic of thief choosing and then all of us will discuss it.

5. 学習の到達目標：(1) 哲学の文献を読み、議論をまとめ、それにもとづいて討論する能力を身につける。

(2) 哲学の文献を踏まえつつ、自分の問題関心で議論を展開することができるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Become able to understand and discuss philosophical texts written in English. Become able to find and discuss philosophical topics.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス

2～6. Simon Blackburn の THINK: A COMPELLING INTRODUCTION TO PHILOSOPHY の 'Free will' の章を読み、議論する。

7～14. 各人がテーマを担当する本を見つけ発表し、討論する。

15. まとめ

(参加者の人数により、内容を一部変更することがある)

8. 成績評価方法：

英語テクストについてのレジュメ報告や討論 (60%)。最後4回ほどの発表、ないし学期末レポート (40%)。

9. 教科書および参考書：

授業時に説明する。

10. 授業時間外学習：英語テクストを読んでいるときには、事前に、次回に取り上げる箇所を読み理解に努めてください。レジュメ報告を担当する際、事前に教員およびTAに相談し、アドバイスを受けて下さい。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

哲学・倫理学以外の専修の方、哲学・倫理学専修でも、3年生以上の方が受講を希望される場合は、事前に、あるいは授業の初回に、教員として相談ください。

科目名：哲学思想基礎講読／ Western Philosophical Thought (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 木曜日 3 講時

セメスター：4 **単位数：**2

担当教員：嶺岸 佑亮

コード：LB44303, **科目ナンバリング：**LHM-PHI214J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ヘーゲル『法哲学講義』の良心論を読む

2. Course Title (授業題目) : Reading Hegel's theory of the conscience in "Vorlesungen über die Philosophie des Rechts"

3. 授業の目的と概要： この授業では、G.W.F. ヘーゲルがベルリン大学で行った「法哲学講義」のうち、1824/25 年度の講義における良心論を精読します。このテキストはヘーゲル自身の手によるものではなく、聴講生であるグリースハイムによる筆記録です。そのため、ヘーゲル自身のテキストに比べてかなり読みやすいです。

良心の問題は道徳と宗教の間を理解する上で重要であるだけでなく、ヘーゲルの中心思想である絶対精神や純粋な知の形成過程を知る上で極めて重要です。ヘーゲルの良心論を読み解くことで、近代ドイツ哲学の特有な点を理解することが出来るようになります。

また必要に応じて、ヘーゲルの主著である『精神現象学』における良心論のテキストも参照します。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : We are going to read Hegel's theory of the conscience in the Vorlesungen über die Philosophie des Rechts of 1824/25 in original German text. This text is a note form Hegel's lecture in Berlin University, which is written by one of his students, names Griesheim.

The problem of conscience is the key to understand the relation between the moral and the religion, and more, to realize why Hegel must develop his theory of the absolut spirit (der absolute Geist) qua the pure science (das reine Wissen).

5. 学習の到達目標：・ドイツ語で書かれたテキストを自分で読むことが出来るようになる。

・自分自身で問題を辿り直し、主体的に考え方抜く態度を身に着ける。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : • To read the original German text by yourself and realize what is discussed there.

• To pursue what is the main point in the text and so attain the attitude to think over

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業の内容・方法と進度予定：

第1回：イントロダクション（授業内容・方法の説明、今後の進め方の確認）

第2回：善とは何か（1）——主觀性をめぐって——

第3回：善とは何か（2）——自己確信とは——

第4回：内面と確信（1）——志操について——

第5回：内面と確信（2）——自己規定をめぐって——

第6回：内面と確信（3）——否定性の役割とは——

第7回：内面と確信（4）——〈深み〉としての良心——

第8回：〈知〉としての良心（1）——一切を洞察する良心——

第9回：〈知〉としての良心（2）——責めを負うということ——

第10回：〈知〉としての良心（3）——行動との関係——

第11回：〈知〉としての良心（4）——惡の自覺——

第12回：善と惡（1）——偽善について——

第13回：善と惡（2）——自己矛盾をめぐって——

第14回：善と惡（3）——意志の役割とは——

第15回：全体のまとめ

8. 成績評価方法：

出席および平常点（毎回の訳読とその準備、文法的分析、討論への参加）

9. 教科書および参考書：

テキストはコピーを配布します。以下を使用予定です。G. W. F. Hegel, Vorlesungen über die Philosophie des Rechts III. Nachschriften zu den Kollegien der Jahre 1824/25 und 1831, Hamburg 2015.

10. 授業時間外学習：各回の予習として、1 頁程度の予習が必要です [Students are required to prepare 1 page for each class]

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：哲学思想各論／ Western Philosophical Thought (Special Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：大森 仁

コード：LB52403, 科目ナンバリング：LHM-PHI305J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：哲学的論理学入門

Introduction to Formal Logic

2. Course Title (授業題目) : An introduction to philosophical logic

3. 授業の目的と概要：論理学の歴史は古く、アリストテレスにまで遡ることができます。しかし、古いからといって、全てが明らかになっているわけではなく、今もなお多くの論理学者たちが、様々な問題と向き合っています。本講義では、古典命題論理に基づいて、現代の論理学の基本的な考え方を習得することを目的とします。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : Logic has a long history, going back to Aristotle. This, however, does not mean that everything has been discovered, and there are still a number of logicians facing various questions. This course aims at providing students with the basics of modern logic through classical propositional logic.

5. 学習の到達目標：論理学とはどのような学問であるのかを理解すること、及び現代の論理学における一つの到達点である古典命題論理に関する健全性定理及び完全性定理の証明を理解することの二点を目的とします。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : This course is designed for students (i) to understand what logic is, and (ii) to understand the soundness and completeness result for classical propositional logic which is the basic and important result modern logic.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- [1] ガイダンス
- [2] 古典命題論理の形式言語
- [3] 古典命題論理の意味論（1）
- [4] 古典命題論理の意味論（2）
- [5] 古典命題論理の意味論（3）
- [6] 古典命題論理の意味論（4）
- [7] 古典命題論理の証明体系（1）
- [8] 古典命題論理の証明体系（2）
- [9] 古典命題論理の証明体系（3）
- [10] 古典命題論理の証明体系（4）
- [11] 古典命題論理の意味論と証明体系の関係（1）
- [12] 古典命題論理の意味論と証明体系の関係（2）
- [13] 古典命題論理の意味論と証明体系の関係（3）
- [14] 古典命題論理の意味論と証明体系の関係（4）
- [15] まとめ

8. 成績評価方法：

期末レポートを主とし（60 パーセント）、平常点（コメントペーパーの提出など）を加味します（40 パーセント）。

9. 教科書および参考書：

講義中に適宜紹介します。

10. 授業時間外学習：講義の内容の復習をしっかりとしてください。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "O" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：哲学思想各論／ Western Philosophical Thought (Special Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：大森 仁

コード：LB62405, 科目ナンバリング：LHM-PHI305J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：哲学的論理学入門
2. Course Title (授業題目) : An introduction to philosophical logic
3. 授業の目的と概要：論理学の歴史は古く、アリストテレスにまで遡ることができます。しかし、古いからといって、全てが明らかになっているわけではなく、今もなお多くの論理学者たちが、様々な問題と向き合っています。本講義では、様相論理に関する技術的・哲学的基本的な事柄について扱います。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : Logic has a long history, going back to Aristotle. This, however, does not mean that everything has been discovered, and there are still a number of logicians facing various questions. This course aims at providing students with the basics of both technical as well as philosophical topics related to modal logic.
5. 学習の到達目標：様相論理に関する健全性定理及び完全性定理の証明を理解すること、及び関連する哲学的話題を理解することの二点を目的とします。
6. Learning Goals(学修の到達目標) : This course is designed for students (i) to understand the soundness and completeness result for modal logic, and (ii) to understand philosophical topics related to modal logic.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - [1] ガイダンス
 - [2] 様相論理の形式言語
 - [3] 様相論理の意味論（1）
 - [4] 様相論理の意味論（2）
 - [5] 様相論理の意味論（3）
 - [6] 様相論理の意味論（4）
 - [7] 様相論理の証明体系（1）
 - [8] 様相論理の証明体系（2）
 - [9] 様相論理の意味論と証明体系の関係（1）
 - [10] 様相論理の意味論と証明体系の関係（2）
 - [11] 様相論理の意味論と証明体系の関係（3）
 - [12] 様相論理の意味論と証明体系の関係（4）
 - [13] 様相論理に関連する哲学的話題（1）
 - [14] 様相論理に関連する哲学的話題（2）
 - [15] まとめ
8. 成績評価方法：
期末レポートを主とし（60 パーセント）、平常点（コメントペーパーの提出など）を加味します（40 パーセント）。
9. 教科書および参考書：
講義中に適宜紹介します。
10. 授業時間外学習：講義の内容の復習をしっかりとしてください。
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：なし

科目名：哲学思想各論／ Western Philosophical Thought (Special Lecture)

曜日・講時：後期集中 その他 その他

セメスター：6 単位数：2

担当教員：清塚 邦彦

コード：LB98818, 科目ナンバリング：LHM-PHI305J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：画像表象に関する分析哲学的研究

2. Course Title (授業題目) : Analytical philosophical research on pictorial representation

3. 授業の目的と概要：本講義では現代の分析哲学において展開されてきた画像表象の本性をめぐる論議について学び、そこで用いられている一連の概念や、争点となってきた一連の命題について理解を深めることを目的とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : In this lecture, we will learn about the debate over the nature of pictorial representation that has been developed in contemporary analytical philosophy, and aim to deepen our understanding of the series of concepts used in the debate and the series of propositions that have been the subject of controversy.

5. 学習の到達目標：本講義では、画像の本性をめぐる現代英語圏における代表的な理論について紹介・検討することを通じて、「類似性」「イリュージョン」「記号システム」「知覚」「想像」等の鍵概念と画像概念の関連について理解を深め、具体的な事例の分析に活用できるようになることを目標とする。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : In this lecture, we will introduce and examine major theories in analytic philosophy concerning the nature of pictorial images, and we will explore related concepts such as "resemblance," "illusion," "symbol system," "perception," and "imagination." The g

7. 授業の内容・方法と進度予定：

本講義では、画像の多様な形や、多様な関連事例についての予備的な考察の後に、画像の本性をめぐる現代英語圏における代表的な理論について紹介・検討を行う。またその中で、「類似性」「イリュージョン」「記号システム」「知覚」「想像」等の鍵概念が画像概念とどのように関連について検討を行う。講義日程の予定は下記の通りである。

- 1 ガイダンス
- 2 予備的な考察（1）いくつかの概念的区別
- 3 予備的な考察（2）絵の近縁種について
- 4 類似性について
- 5 ビアズリーの類似説について
- 6 類似説への批判
- 7 ゴンブリッヂのイリュージョンの理論
- 8 ゴンブリッヂ（続）
- 9～10 グッドマンの記号システムの理論
- 11～12 ウォルハイムの知覚説
- 13～14 ウォルトンのごっこ遊び理論
- 15 まとめ

8. 成績評価方法：

平常点ならびに期末レポートにより評価する。

9. 教科書および参考書：

教科書：清塚邦彦『絵画の哲学』勁草書房、2024年 参考書は随時指示する。

10. 授業時間外学習：講義と並行して教科書の該当箇所について予習ならびに復習として学習すること。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：生命環境倫理学各論／ Bio-Environmental Ethics (Special Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 5 講時

セメスター：6 **単位数：**2

担当教員：原 塑

コード：LB65501, **科目ナンバリング：**LHM-PHI306J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：研究の倫理とコミュニケーション

2. Course Title (授業題目) : Research Ethics and Science Communication

3. 授業の目的と概要：この授業では、研究倫理と科学コミュニケーションという二つの内容を扱います。本来、研究倫理は研究を倫理的観点から規制する学問、科学コミュニケーションは研究の内容を社会に伝え、科学への社会からの支持を調達する活動であって、これらは対立的関係に立ちます。しかし、現在では、研究に対する社会からの要望や懸念を研究者と市民が共有し、それを研究者が考慮しつつ研究活動を行うことが研究の倫理的信頼性と研究に対する社会からの支持を高めると考えられるようになります。そこで、この授業では、研究倫理の観点を考慮しつつ、科学コミュニケーションについて講義します。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : In this class, we will cover two topics: research ethics and science communication. Originally, research ethics was the study of regulating research from an ethical perspective, and science communication was the activity of communicating the content of research to society and procuring public support for science. However, nowadays, they are increasingly merging, with researchers and citizens sharing society's demands and concerns about research, and researchers taking these into account in their research activities, which is believed to enhance the ethical credibility of research and society's support for research. Therefore, this class will lecture on science communication, taking into account the perspective of research ethics.

5. 学習の到達目標：1. 科学コミュニケーションの基礎理論とその問題点を理解する。

2. 東日本大震災、コロナ禍で行われた科学コミュニケーションの特徴と問題点を理解する。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : 1. to understand the basic theory of science communication and its problems
2. To understand the characteristics and problems of science communication in the Great East Japan Earthquake and the Corona Disaster.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業は講義形式で、以下の内容を扱います。

対面とオンラインを併用します。

1. イントロダクション

2~7. 科学コミュニケーションの理論

8・9. 東日本大震災と科学コミュニケーション

10・11. あいちトリエンナーレ 2019 と科学コミュニケーション

12・13. コロナ禍と科学コミュニケーション

14. 科学コミュニケーションの新しい課題

15. まとめ

8. 成績評価方法：

出席し、課題を提出する (60%)、レポート (40%)

9. 教科書および参考書：

なし

10. 授業時間外学習：授業中に配布する資料をよく読んでおいてください。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 3 講時

セメスター：5 **単位数：**2

担当教員：直江 清隆

コード：LB52306, **科目ナンバリング：**LHM-PHI313J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：生命の哲学

2. Course Title (授業題目) : Seminar on philosophy of life

3. 授業の目的と概要：20世紀以降の生命の哲学／生物学の哲学の基礎文献を読み、基礎的な問題構成を理解する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : The aim of this course is to read the basic literature on the philosophy of life and philosophy of biology since the 20th century and understand their basic structure.

5. 学習の到達目標：・生命哲学／生物学の哲学の基本概念について説明をすることができる。

・生命哲学／生物学の哲学に孕む様々な問題とその解決方について論じることができる

6. Learning Goals(学修の到達目標) : ・Explain the essential concepts of the philosophy of life and the philosophy of biology

of biology

・Discuss the fundamental issues in the philosophy of life and the philosophy of biology

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業では、参加者による論文紹介と討論をメインとし、じっくり討論することに力点を置く。授業開始時に提示された日本語ないし英語の文献(V. v, ヴァイツゼッカー『ゲシュタルトクライス 知覚と運動の人間学』/ Colin Allen et al. (ed.), Nature's Purposes: Analyses of Function and Design in Biology/キム・ステレルニー、ポール・E・グリフィス『セックス・アンド・デス 生物学の哲学への招待』)の文献リストをもとに選択する。以下のような内容を想定する。

1, オリエンテーション

2, ゲシュタルトクライス 自然哲学から生理学へ(1)

3, ゲシュタルトクライス ゲシュタルトクライス 自然哲学から生理学へ(2)

4, ゲシュタルトクライス 相即原理

5, ゲシュタルトクライス 生物学的行為と主体

6, ゲシュタルトクライス パトス的範疇

7, 生物学的機能 生物の固有機能

8, 生物学的機能 機能と自然選択

9, 生物学的機能 機能とデザイン

10, 生物学的機能と適応、自然のデザイン

11, 進化的説明(1)

12, 進化的説明(2)

13, 進化と人間本性(1)

14, 進化と人間本性(2)

15, まとめ

8. 成績評価方法：

レポート（報告を含む） 80% 授業への参加（討論） 20%

9. 教科書および参考書：

V. v, ヴァイツゼッカー『ゲシュタルトクライス』木村敏、濱中淑彦訳 / Colin Allen et al. (ed.), Nature's Purposes: Analyses of Function and Design in Biology/キム・ステレルニー、ポール・E・グリフィス『セックス・アンド・デス』松本俊吉監修・解題は適宜配布する。

10. 授業時間外学習：事前にテキストを読み、議論に備える。また、授業での方向、議論をもとに、振り返って考察する。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：哲学思想演習／Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 5 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：直江 清隆

コード：LB52505, 科目ナンバリング：LHM-PHI313J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：現象学研究

2. Course Title (授業題目) : Seminar on Phenomenology

3. 授業の目的と概要：フッサーの『受動的総合の分析』を読み、現象学的な知覚、総合、自我、時間などの議論を理解する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : The aim of this course is to read Husserl's "Analyses Concerning Passive and Active Synthesis" and help students to acquire an understanding of the fundamental discussions of perception, synthesis, ego and time.

5. 学習の到達目標：・現象学の基本概念について説明をすることができる。

・現象学の議論における知覚、総合、自我、時間の役割について論じることができる

6. Learning Goals(学修の到達目標) : After taking this course, participants will be able to :

- Explain the essential concepts of phenomenology
- Discuss the role of perception, synthesis, ego and time in phenomenological arguments

7. 授業の内容・方法と進度予定：

私たちは、何かを知覚し、想起するといった経験をする。このとき、私が何かをするという主題的、能動的な働きをまず考えがちであるが、その土台として、自我の関与なしにおのずと生起する連合や触発といった働きが先行している。これはカント的な総合と区別して受動的総合と呼ばれるが、フロイトの無意識とは違った意識のあり方である。『受動的総合の分析』では、自我からの能作の関与していない感性野の自発的組織化が明らかにされるが、そこでは感情契機のはたらきや意識が流れることの分析を通じて、自我、時間といったことが解き明かされていくことになる。

この授業では現象学について概括的な紹介をしたのち、本書の序論を読んで枠組を確認する。本書はもともと講義録であるが、精読を必要とする。授業では議論をていねいに読み解きながら、知覚、総合、自我、時間といった問題についてのフッサーの議論を検討する。原文はドイツ語であるが、すぐれた英訳や、訳註と解説がついた日本語訳も出ている。授業は、適当な部分ごとに担当者を決め、授業内でテキストを訳読し、議論するかたちで進めるが、同時にこれらの概念の問題性について議論する。

- 1、イントロダクション 現象学とは
- 2、「知覚における自己所与」 読解 (1)
- 3、「知覚における自己所与」 読解 (2)
- 4、「知覚における自己所与」 読解 (3)
- 5、「知覚における自己所与」 読解 (4)
- 6、中間まとめ 1 パースペクティブについて
- 7、「受動的総合の原現象」 読解 (5)
- 8、「受動的総合の原現象」 読解 (6)
- 9、「受動的総合の原現象」 読解 (7)
- 10、「受動的総合の原現象」 読解 (8)
- 11、中間まとめ 2 連合について
- 12、「受動的総合の原現象」 読解 (9)
- 13、「受動的総合の原現象」 読解 (10)
- 14、「受動的総合の原現象」 読解 (11)
- 15、まとめ

8. 成績評価方法：

レポート 50%

平常点 50%(討論などを含む)

9. 教科書および参考書：

E. Husserl. "Analysen zur passiven Synthesen" (Husserliana XI), (Analyses Concerning Passive and Active Synthesis, trans. by A. J. Steinbock/『受動的総合の分析』山口一郎、田村京子訳、みすず書房) 欧文、訳文テキストは授業時に配布する。

参考書は隨時紹介するが、翻訳に付けられた訳註と解説はまず有力な参考になる。

山口一郎『現象学ことはじめ』白桃書房

欧文の参考書は

10. 授業時間外学習：担当でない場合でも予習する。テキストと深く関連する参考図書、関連図書などを利用して、自分なりに取り組んでみること。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時

セメスター：5 **単位数：**2

担当教員：嶺岸 佑亮

コード：LB53308, **科目ナンバリング：**LHM-PHI313J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ヘーゲル『精神現象学』の「理性」章を読む

2. Course Title (授業題目) : Reading the Chapter of the Reason in Hegel's Phanomenology of Spirit

3. 授業の目的と概要： ヘーゲルをはじめとする近代ドイツの哲学者たちは、ドイツ観念論という名のもとにくられるのが一般的です。その場合、彼らの哲学が全体として観念論に属する、という先行了解が背後にあります。ただ彼らのテキストを実際に紐解くならば、事情はそう簡単ではないことが用意に見て取れます。そこで本演習では、ヘーゲルの『精神現象学』から「理性」章を取り上げ、観念論をめぐる議論を実際に検証してみることにします。そうすることで、カントの批判的観念論、ヤコービによる観念論と实在論の対比、フィヒテとシェリングにおける超越論的観念論など、観念論をめぐる多様な立場があることが見て取れるようになるはずです。

本演習は、ヘーゲルのテキストをドイツ語の原文で読み進めるかたちで行います。事前に担当箇所を割り当てます。また必要に応じて、カントやフィヒテやシェリングなどの観念論に関する議論も参照します。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : Wir werden das Vernunft-kapitel von Hegels "Phänomenologie des Geistes" lesen. Dort wird diskutiert, was der Idealismus eigentlich bedeutet, sowie was die Realität für die Vernunft ist. Hegels Argumentation verweist viele vorhergehende Denker wie Kant, Jacobi, Fichte und Schelling. Hegels Auseinandersetzung mit ihren verschiedenen Behandlungsarten vom Idealismus wird uns klar machen, dass man Hegels Philosophie nicht einfach als Idealismus zu bestimmen ist.

5. 学習の到達目標：・ドイツ語で書かれたテキストを自分で読むことが出来るようになる。

・自分自身で問題を辿り直し、主体的に考え抜く態度を身に着ける。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : • To read the original German text by yourself and realize what is discussed there.

• To pursue what is the main point in the text and so attain the attitude to think over

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：イントロダクション（授業の進め方、担当箇所の割り当てなど）

第2回：近代的理性——意識の一形態としての理性——

第3回：自己意識としての理性——対象との関係と实在性の確信——

第4回：理性の立場としての観念論

第5回：観念論における实在性の位置づけ

第6回：理性とカテゴリー

第7回：カテゴリーはどのように対象に関係するか

第8回：カントの純粹統覚論との関係

第9回：観念論における真理概念について

第10回：理性の観察について

第11回：概念と物

第12回：理性の観察対象としての自然

第13回：普遍・特殊・個別

第14回：自然観察における認識の特徴について

第15回：全体のまとめ

8. 成績評価方法：

出席および平常点（毎回の誤読とその準備、文法的分析、討論への参加）

9. 教科書および参考書：

テキストはコピーを配布します。以下の PhB 版を使用予定です。

G. W. F. Hegel, Phanomenologie des Geistes, Philosophische Bibliothek Bd. 414, Hamburg 1988.

10. 授業時間外学習：各回の予習として、1 頁程度の予習が必要です。

[Students are required to prepare 1 page for each class]

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 5 講時

セメスター：5 **単位数：**2

担当教員：城戸 淳

コード：LB53504, **科目ナンバリング：**LHM-PHI313J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：カント『純粹理性批判』研究

2. Course Title (授業題目) : Kant's Critique of Pure Reason

3. 授業の目的と概要：カントの『純粹理性批判』(1781/87 年) をドイツ語原文で読む。今年度はアンチノミー章にとりくむ。担当者には、訳説に加えて、解釈的な設問に応えてもらう。また、進行に応じて、関連するコメントタリーや研究書・論文などを報告する機会を設ける。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : We read Kant's Critique of Pure Reason (1781/87) in the original German. We will work on the chapter of "The Antinomy of Pure Reason" this year. In addition to reading, students will be asked to answer interpretive questions and to report on commentaries or articles on the Antinomy.

5. 学習の到達目標：哲学の原典テクストを読みとく忍耐と技法を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : To develop the abilities to read and analyse philosophical texts.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1 - 15 「純粹理性のアンチノミー」章講読

第二章 純粹理性のアンチノミー

第一節 宇宙論的理念の体系

第二節 純粹理性の背反論

超越論的理念の第一の抗争

第一アンチノミーに対する注解

超越論的理念の第二の抗争

第二アンチノミーに対する注解

超越論的理念の第三の抗争

第三アンチノミーに対する注解

超越論的理念の第四の抗争

第四アンチノミーに対する注解

第三節 これらの抗争における理性の関心について

第四節 端的に解決されうるはずであるかぎりの、純粹理性の超越論的課題について

第五節 四つの超越論的理念すべてをつうじて生じる宇宙論的問いの懐疑的な表象

第六節 宇宙論的弁証論を解決するカギとしての超越論的観念論

8. 成績評価方法：

訳説、報告、討議、期末レポートによる。

9. 教科書および参考書：

Immanuel Kant, Kritik der reinen Vernunft, PhB 505, ed. J. Timmermann, Hamburg: Felix Meiner Verlag, 1998.
(他の箇所の参照のために原典の冊子は必須。できれば上記の新哲学文庫版を購入してください。)

10. 授業時間外学習：予習を欠かさずに演習に臨むこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：哲学思想演習／Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：前期 木曜日 2 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：城戸 淳

コード：LB54210, 科目ナンバリング：LHM-PHI313J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：カントの目的論

2. Course Title (授業題目) : Kant's Teleology

3. 授業の目的と概要： カントの『判断力批判』(1790) の第2部「目的論的判断力の批判」は、『純粹理性批判』と『実践理性批判』とのあいだに広がる自然と自由との断絶を架橋し、批判哲学に体系的連関を与える雄篇である。そこで展開されるカントの目的論の哲学は、こんにちなお、生物学の哲学的基礎づけにとどまらず、自然における人間の生の位置と意味について、豊かな示唆を与えてくれる。

演習では「目的論的判断力の批判」の分析論から弁証論、さらに時間が許せば付録までを、邦訳をもとに読みすすめる。各回、担当者による読解の報告をふまえて、カントの目的論をめぐる諸論点について討議する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : Close reading and philosophical analysis of "Critique of the Teleological Power of Judgment" in Kant's Critique of the Power of Judgment.

5. 学習の到達目標：『判断力批判』を読みといて、カントの目的論の概要を把握する。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : Students will understand an outline of Kantian teleology on the basis of reading the third Critique.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回 カント『判断力批判』第2部「目的論的判断力の批判」への導入

第2～7回 第1編 目的論的判断力の分析論

第8～11回 第2編 目的論的判断力の弁証論

第12～14回 付録 目的論的判断力の方法論

第15回 総括と討論

8. 成績評価方法：

討議、担当回の報告、期末レポートによる。

9. 教科書および参考書：

カント『判断力批判（下）』中山元訳、光文社、2023年。（教科書として生協に指定しております。）

10. 授業時間外学習：事前にテクストを読み、演習に参加して、事後に再読する。その過程を反復することが、哲学的な読解と咀嚼を深める近道です。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 3 講時

セメスター：5 **単位数：**2

担当教員：森 一郎

コード：LB55305, **科目ナンバリング：**LHM-PHI313J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：アーレント『精神の生』講読

2. Course Title (授業題目) : Reading Arendt: The Life of the Mind

3. 授業の目的と概要：この授業では、ハンナ・アーレントの主著の一つである『精神の生』を精読し、現代における哲学の可能性について考えていく。

*教室での対面授業のみとし、オンライン授業は行なわない。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : We read one of Hannah Arendt's major works, The Life of the Mind, and think about the possibilities of contemporary philosophy.

We meet all the class members at the real classroom.

5. 学習の到達目標：1. 哲学の古典を精読する醍醐味を味わう

2. じっくりものを考えるということの重要性を理解する。

3. 哲学の歴史に学ぶことの重要性を理解する。

4. 今日的問題を根本的に掘り下げるうことの重要性を理解する。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : 1. To enjoy the pleasure of reading the philosophical classical texts.

2. To learn the significance of thinking radically.

3. To learn the significance of the history of philosophy.

4. To understand the significance of fundamental reflexions on modern

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業の実施形態：対面授業

第1回：ガイダンス

第2回：『精神の生』第一部『思考』第3章第16節（その1）第1～6段落

第3回：『思考』第3章第16節（その2）第7～14段落

第4回：『思考』第3章第16節（その3）第15～19段落

第5回：『思考』第3章第16節（その4）第20～25段落

第6回：『思考』第3章第17節（その1）第1～5段落

第7回：『思考』第3章第17節（その2）第6～11段落

第8回：中間考察

第9回：『思考』第3章第17節（その3）第12～18段落

第10回：『思考』第3章第17節（その3）第19～23段落

第11回：『思考』第3章第18節（その1）第1～11段落

第12回：『思考』第3章第18節（その2）第12～21段落

第13回：『思考』第3章第18節（その3）第22～30段落

第14回：アーレントの「一者のなかの二者」論

第15回：まとめ

8. 成績評価方法：

平常点（出席・質疑応答への参加等）50%、学期末レポート50%で、総合的に評価する。

9. 教科書および参考書：

教科書はとくに定めず、授業用に用意したプリントを配布し、それに沿って議論する。

参考書：

• Hannah Arendt, The Life of the Mind. One / Thinking, Harcourt Brace & Company, 1978

• 佐藤和夫訳『精神の生活（上）』岩波書店、1994年

• ハンナ・アーレント『活動的生』森一郎訳、みすず書房、2015年

• ハンナ・アーレント『革命論』森一郎訳、みすず書房、2022年

• エリザベス・ヤング=ブルーエル『ハンナ・アーレント』

10. 授業時間外学習：配布プリント、参考書、関連文献を熟読すること。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "O" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

使用言語：日本語／Language: Japanese

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 3 講時

セメスター：5 **単位数：**2

担当教員：文 景楠

コード：LB55306, **科目ナンバリング：**LHM-PHI313J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：アリストテレス『エウデモス倫理学』を読む

2. Course Title (授業題目) : Reading Aristotle's Ethica Eudemia

3. 授業の目的と概要：アリストテレス倫理学の基本文献である『エウデモス倫理学』を、近年出版された新たな校訂本と注釈を参照しながら古典ギリシア語で読む。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : This course serves as an introduction to Aristotle's Ethica Eudemia, one of the most important works in his ethical treatises. Students will be required to read the original Greek text with the recent critical edition and commentaries.

5. 学習の到達目標：アリストテレスの倫理学と関連する様々なトピックに親しみ、古代ギリシア哲学をテーマとする論文を執筆するための作法を学ぶ。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : Students will learn the basic topics in Aristotle's ethics and become familiar with the research in Ancient Greek Philosophy.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

本授業は演習を中心進めること（オンライン授業の予定はない）。内容及び予定は以下のとおりであるが、進捗状況によって若干変更する場合もある。

第1回 オリエンテーション

第2回 アリストテレス倫理学の紹介

第3回 Rowe の序文を読む

第4回 第1巻第1章を読む

第5回 第1巻第2章を読む

第6回 第1巻第3章を読む

第7回 第1巻第4章を読む

第8回 第1巻第5章を読む

第9回 第1巻第6章を読む

第10回 第1巻第7章を読む

第11回 第1巻第8章を読む

第12回 第2巻第1章を読む

第13回 第2巻第2章を読む

第14回 第2巻第3章を読む

第15回 レポート構想発表

8. 成績評価方法：

毎回の訳読や討論を含む平常点 60%、最終レポート 40%

9. 教科書および参考書：

教員が授業中に配布する。

References are handed out at every class.

10. 授業時間外学習：担当者はレジュメを準備し、積極的に議論に参加することが要求される。

Students should prepare a handout in turn and engage in classroom discussion actively.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

古典ギリシア語の基本的な知識をもっていることを前提とする。

Students are assumed to be familiar with the essentials of the Ancient Greek language.

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：原 塑

コード：LB55405, 科目ナンバリング：LHM-PHI313J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：科学的理解 1

2. Course Title (授業題目) : Scientific Understanding 1

3. 授業の目的と概要：科学哲学ではこれまで、科学的説明について有意義な議論が展開されてきたが、科学的理解にはあまり手がつけられてこなかった。この授業では、科学的理解についての体系的著作である、Henk W. De Regt, 2020. Understanding Scientific Understanding, Oxford University Press を講読し、科学的理解についての理解を深める。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : In the philosophy of science, there has been significant discussion of scientific explanation, but not much has been done on scientific understanding. In this class, we will read Henk W. De Regt, 2017. Understanding Scientific Understanding, Oxford University Press, that is a systematic work on scientific understanding, to deepen our understanding of scientific understanding.

5. 学習の到達目標：科学を理解するとはどのようなことかを理解する。

科学の理解を促進する方法を理解する。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : To understand what it means to understand science.

To understand how to facilitate understanding of science.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業の構成は以下の通り。

第一回 イントロダクション

第二回～第十五回 文献講読

8. 成績評価方法：

授業に出席し、訳読やレジュメを担当する (60%)。期末レポートを提出する (40%)。

9. 教科書および参考書：

Henk W. De Regt, 2017. Understanding Scientific Understanding, Oxford University Press.

10. 授業時間外学習：授業時に読む文献にあらかじめ目を通しておいていただきたい。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "O" Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時

セメスター：6 **単位数：**2

担当教員：荻原 理

コード：LB61406, **科目ナンバリング：**LHM-PHI313J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：新プラトン主義の秘儀論を読む

2. Course Title (授業題目)：Neoplatonists on mysteries

3. 授業の目的と概要：秘儀等をめぐる新プラトン主義者（イアンブリコス、プロクロス、プロティノス）さらにはプラトンのテクストを原語古代ギリシャ語で読み、内容について議論する。

それを通じて、秘儀等をめぐる新プラトン主義・プラトンの論の理解を得る。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：We shall read texts by Neoplatonists (Iamblichus, Proclus, Plotinus, etc.) and Plato on mysteries and other related topics to understand their views on these topics.

5. 学習の到達目標：新プラトン主義の秘儀論の主要論点を理解する。重要なテクストの内容を正確に説明できるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：To understand main points about Neoplatonist accounts of mysteries.

To become able to explain main texts on these topics accurately.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

最初の数回でイアンブリコス『秘儀について』からいくつかのテクストを読む。それからどんなテクストを読むかは授業時に話し合って決める。

1. オリエンテーション

2. イアンブリコス『秘儀について』(1)

3. イアンブリコス『秘儀について』(2)

4. イアンブリコス『秘儀について』(3)

5. イアンブリコス『秘儀について』(4)

6. 第2テクスト(1)

7. 第2テクスト(2)

8. 第2テクスト(3)

9. 第2テクスト(4)

10. 第2テクスト(5)

11. 第3テクスト(1)

12. 第3テクスト(2)

13. 第3テクスト(3)

14. 第3テクスト(4)

14. 第3テクスト(5)

8. 成績評価方法：

授業時のパフォーマンス

9. 教科書および参考書：

授業時に配布する

10. 授業時間外学習：次回に読む箇所の予習、読んだ箇所の復習

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 3 講時

セメスター：6 **単位数：**2

担当教員：直江 清隆

コード：LB62305, **科目ナンバリング：**LHM-PHI313J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：・技術の哲学
2. Course Title (授業題目) : Seminar on philosophy of technology
3. 授業の目的と概要：現在の技術哲学の基礎文献を読み、基礎的な問題構成を理解する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : The aim of this course is to read the basic literature on the philosophy of technology

5. 学習の到達目標：・現代の技術哲学の基本概念について説明をすることができる。

・現代の技術哲学に孕む様々な問題とその解決方について論じることができる

6. Learning Goals(学修の到達目標) : • Explain the essential concepts of the philosophy of technology

• Discuss the fundamental issues in the philosophy of technology

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業では、参加者による論文紹介と討論をメインとし、じっくり討論することに力点を置く。授業開始時に提示された日本語ないし英語の文献(P.=P. フェルベーク『技術の道徳化』/Maarten Franssen et al. (ed.) Philosophy of Technology after the Empirical Turn 2016)を文献リストをもとに選択する。以下のような内容を想定する。

- 1, オリエンテーション
- 2, 歴史と背景(1)
- 3, 歴史と背景(2)
- 4, 現象学と解釈学(1)
- 5, ポスト現象学と解釈学(2)
- 6, 批判理論(1)
- 7, 批判理論(2)
- 8, 分析哲学的アプローチ(1)
- 9, 分析哲学的アプローチ(2)
- 10, デザインの哲学
- 11, リスクの哲学と倫理
- 12, 情報技術から哲学へ（1）
- 13, 情報技術から哲学へ（2）
- 14, ロボット工学と人工知能
- 15, まとめ

8. 成績評価方法：

レポート) (報告を含む) 80% 授業への参加 (討論) 20%

9. 教科書および参考書：

直江清隆「技術哲学と〈人間中心的〉デザイン」『知の生態学的転回』2013。直江清隆「行為の形としての技術」『思想』2001-7。マーク・クケルベーク『技術哲学講義』直江清隆, 久木田水生監訳、丸善出版, 2023(Marck Coeckelbergh, Introduction to philosophy of technology, 2020) ほかの使用文献(日、英)は適宜配布する。

10. 授業時間外学習：事前にテキストを読み、議論に備える。また、授業での方向、議論をもとに、振り返って考察する。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "O" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 5 講時

セメスター：6 **単位数：**2

担当教員：直江 清隆

コード：LB62504, **科目ナンバリング：**LHM-PHI313J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：現象学研究

2. Course Title (授業題目) : Seminar on Phenomenology

3. 授業の目的と概要：フッサーの『受動的総合の分析』を読み、現象学的な知覚、総合、自我、時間などの議論を理解する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : The aim of this course is to read Husserl's "Analyses Concerning Passive and Active Synthesis" and help students to acquire an understanding of the fundamental discussions of perception, synthesis, ego and time.

5. 学習の到達目標：・現象学の基本概念について説明をすることができる。

・現象学の議論における知覚、総合、自我、時間の役割について論じることができる

6. Learning Goals(学修の到達目標) : After taking this course, participants will be able to :

- Explain the essential concepts of phenomenology
- Discuss the role of perception, synthesis, ego and time in phenomenological arguments

7. 授業の内容・方法と進度予定：

前期に続き、『受動的総合の分析』を読んで議論する。

1、前期の授業の復習：『受動的総合の分析』における有機的世界の構成

2、「触発の現象」 読解 (1)

3、「触発の現象」 読解 (2)

4、「触発の現象」 読解 (3)

5、「触発の現象」 読解 (4)

6、中間まとめ 1 触発について

7、「触発と連合」 読解 (5)

8、「触発と連合」 読解 (6)

9、「触発と連合」 読解 (7)

10、「触発と連合」 読解 (8)

11、中間まとめ 2 連合について

12、「触発と予期」 読解 (9)

13、「触発と予期」 読解 (10)

14、「触発と予期」 読解 (11)

15、まとめ

8. 成績評価方法：

レポート 50%

平常点 50%(討論などを含む)

9. 教科書および参考書：

E. Husserl. "Analysen zur passiven Synthesis" (Husseriana XI), (Analyses Concerning Passive and Active Synthesis, trans. by A. J. Steinbock/ 『受動的総合の分析』山口一郎、田村京子訳、みすず書房) 欧文、訳文テキストは授業時に配布する。

参考書は随時紹介するが、翻訳に付けられた訳註と解説はまず有力な参考になる。

山口 一郎『現象学ことはじめ』白桃書房

欧文の参考書は

10. 授業時間外学習：担当でない場合でも予習する。テクストと深く関連する参考図書、関連図書などを利用して、自分なりに取り組んでみること。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：哲学思想演習／Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 3 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：嶺岸 佑亮

コード：LB63307, 科目ナンバリング：LHM-PHI313J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ヘーゲル『精神現象学』の「自己意識」章を読む

2. Course Title (授業題目) : Reading the Chapter of the Self-Consciousness in Hegel's Phanomenology of Spirit

3. 授業の目的と概要： 自己意識は、近代哲学全体を貫く基本的モチーフの一つです。〈私は私である〉ということをめぐって、それぞれの哲学者がきわめて多様な理解を展開しました。その中でも、ヘーゲルの『精神現象学』における自己意識の理論はきわめて独自のものといえます。そこでは、〈私〉は単独的なものとしてではなく、別の〈私〉との相互的な関係に常にあるものとされています。ヘーゲルの自己意識理論は、近代的市民社会のありように密接にかかわるものとして、後代の様々な思想家によって注目され続けてきました。その意味でも、『精神現象学』の自己意識理論を読み解くことは、哲学的に重要な意義をもつといえます。

本演習では、ヘーゲルのテクストをドイツ語原文で読み進めます。事前に担当箇所を割り当てます。また必要に応じて、ガダマーやレーヴィット、フランクフルト学派などの関連テクストも紹介する予定です。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : Das Selbstbewusstsein ist eines der wichtigsten Themen in der neuzeitlichen Philosophie. Was das bedeutet, dass Ich Ich bin, darüber haben jede Philosophen in der Neuzeit seine eigene Theorie entwickelt haben. In diesem Kontext ist Hegels Theorie des Selbstbewusstseins in seiner "Phänomenologie des Geistes" von eigentümlicher Bedeutung. Wir werden darüber anhand dem originalen deutschen Text diskutieren.

5. 学習の到達目標：・ドイツ語で書かれたテクストを自分で読むことが出来るようになる。

・自分自身で問題を辿り直し、主体的に考え抜く態度を身に着ける。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : • To read the original German text by yourself and realize what is discussed there.

• To pursue what is the main point in the text and so attain the attitude to think over

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：イントロダクション（授業の進め方、担当箇所の割り当てなど）

第2回：意識の一形態としての自己意識

第3回：自己意識の対象性について

第4回：生きたものは生きたものを対象とする——自己意識の対象としての生——

第5回：自己意識の基本的特徴としての欲望

第6回：自己意識と類

第7回：〈私は私である〉ことの意味とは

第8回：欲望の充足と自己確信

第9回：私と我々——自己意識の普遍性——

第10回：相互承認をめぐって

第11回：二重化された自己意識

第12回：主人と奴隸

第13回：労働と物の加工

第14回：労働を通じた自由の獲得

第15回：全体のまとめ

8. 成績評価方法：

出席および平常点（毎回の誤読とその準備、文法的分析、討論への参加）

9. 教科書および参考書：

テクストはコピーを配布します。以下の PhB 版を使用予定です。

G.W.F. Hegel, Phänomenologie des Geistes, Philosophische Bibliothek Bd. 414, Hamburg 1988.

10. 授業時間外学習：各回の予習として、1 頁程度の予習が必要です。

[Students are required to prepare 1 page for each class]

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 5 講時

セメスター：6 **単位数：**2

担当教員：城戸 淳

コード：LB63505, **科目ナンバリング：**LHM-PHI313J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：カント『純粹理性批判』研究

2. Course Title (授業題目) : Kant's Critique of Pure Reason

3. 授業の目的と概要：カントの『純粹理性批判』(1781/87 年) をドイツ語原文で読む。今年度はアンチノミー章にとりくむ。担当者には、訳説に加えて、解釈的な設問に応えもらう。また、進行に応じて、関連するコメントタリーや研究書・論文などを報告する機会を設ける。

読解は前期の続きから始めるが、後期から参加した受講生がいる場合は、前期の復習の時間を設ける。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : We read Kant's Critique of Pure Reason (1781/87) in the original German. We will work on the chapter of "The Antinomy of Pure Reason" this year. In addition to reading, students will be asked to answer interpretive questions and to report on commentaries or articles on the Antinomy.

5. 学習の到達目標：哲学の原典テクストを読みとく忍耐と技法を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : To develop the abilities to read and analyse philosophical texts.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1 - 15 「純粹理性のアンチノミー」章講読

第七節 宇宙論における、理性のじぶん自身との抗争の批判的判定

第八節 宇宙論的理念にかんする純粹理性の統制的原理

第九節 あらゆる宇宙論的観念にかんして、理性の統制的原理を経験的に使用することについて

I 世界全体という現象の合成における、全体性にかんする宇宙論的理念の解決

II 直観において与えられた全体の分割にさいしての、全体性にかんする宇宙論的理念の解決

数学的一超越論的理念の解決に対する結びの注、ならびに力学的一超越論的理念の解決への予備的注意

III 世界のできごとをその原因からみちびき出すさいの、導出の全体性にかんする宇宙論的諸理念の解決

自然必然性の普遍的法則と統合された、自由による原因性の可能性

普遍的自然必然性と結合された、自由という宇宙論的理念の解明

IV その現存在一般という面での、現象の依存性の全体性にかんする宇宙論的理念の解決

純粹理性のアンチノミー全体に対する結語

8. 成績評価方法：

訳説、報告、討議、期末レポートによる。

9. 教科書および参考書：

Immanuel Kant, Kritik der reinen Vernunft, PhB 505, ed. J. Timmermann, Hamburg: Felix Meiner Verlag, 1998.
(他の箇所の参照のために原典の冊子は必須。できれば上記の新哲学文庫版を購入してください。)

10. 授業時間外学習：予習を欠かさずに演習に臨むこと。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：後期 木曜日 2 講時

セメスター：6 **単位数：**2

担当教員：城戸 淳

コード：LB64208, **科目ナンバリング：**LHM-PHI313J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：アリソン『カントの超越論的観念論』を読む

2. Course Title (授業題目)：Henry E. Allison, Kant's Transcendental Idealism: An Interpretation and Defense

3. 授業の目的と概要： アリソンの『カントの超越論的観念論 — 解釈と擁護』(改訂増補版, 2004 年) を読む (英語)。おそらくここ四半世紀でもっとも重要な『純粹理性批判』の研究書であり、ひとつの里程碑として踏まえておくべきという地位をお失っていないと思われる。

予定では、第 1 部の The Nature of Transcendental Idealism から読み始め、時間が許せば受講生の関心に応じて別の箇所へ進む。演習では担当者による要旨の発表 (日本語) について、討議によって理解を深めるものとする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Reading Kant's Transcendental Idealism by Henry E. Allison.

5. 学習の到達目標：英語の専門的なカント研究書を読みこなす力を持つこと。アリソン式のカント解釈の概要を学ぶこと。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：To read a scholarly work on Kant in English. To obtain an overview of Allison's interpretation of Kant.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

Part I The Nature of Transcendental Idealism

1 An Introduction to the Problem

2 Transcendental Realism and Transcendental Idealism

3 The Thing in Itself and the Problem of Affection

Part II Human Cognition and Its Conditions

4 Discursivity and Judgment

5 The Sensible Conditions of Human Cognition

6 The Intellectual Conditions of Human Cognition

Part III Categories, Schemata, and Experience

7 The Transcendental Deduction

8 The Schematism of the Understanding and the Power of Judgment

9 The Analogies of Experience

10 Inner Sense and the Refutation of Idealism

Part IV The Transcendental Dialectic

11 Reason and Illusion

12 The Paralogisms

13 The Antinomy of Pure Reason

14 The Ideal of Pure Reason

15 The Regulative Function of Reason

8. 成績評価方法：

報告、討議、期末レポートによる。

9. 教科書および参考書：

Henry E. Allison, Kant's Transcendental Idealism: An Interpretation and Defense, Revised and Enlarged Edition, Yale University Press, 2004. ISBN-13: 978-0300102666.
(講読箇所のコピーを配布する。その他の箇所や文献表を参照するには、上記の冊子を買うほうが望ましい。)

10. 授業時間外学習：予習を欠かさず演習に臨むこと。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：原 塑

コード：LB65405, 科目ナンバリング：LHM-PHI313J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：科学的理解 2

2. Course Title (授業題目) : Scientific Understanding 2

3. 授業の目的と概要：科学哲学ではこれまで、科学的説明について有意義な議論が展開されてきたが、科学的理解にはあまり手がつけられてこなかった。この授業では、科学的理解についての体系的著作である、Henk W. De Regt, 2020. Understanding Scientific Understanding, Oxford University Press を、前期に続けて講読し、科学的理解についての理解を深める。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : In the philosophy of science, there has been significant discussion of scientific explanation, but not much has been done on scientific understanding. In this class, we will read Henk W. De Regt, 2017. Understanding Scientific Understanding, Oxford University Press, that is a systematic work on scientific understanding, to deepen our understanding of scientific understanding.

5. 学習の到達目標：科学を理解するとはどのようなことかを理解する。

科学の理解を促進する方法を理解する。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : To understand what it means to understand science.

To understand how to facilitate understanding of science.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業の構成は以下の通り。

第一回 イントロダクション

第二回～第十五回 文献講読

8. 成績評価方法：

授業に出席し、訳読やレジュメを担当する (60%)。期末レポートを提出する (40%)。

9. 教科書および参考書：

Henk W. De Regt, 2017. Understanding Scientific Understanding, Oxford University Press.

10. 授業時間外学習：授業時に読む文献にあらかじめ目を通しておいていただきたい。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "O" Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：生命環境倫理学演習／ Bio-Environmental Ethics (Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 5 講時

セメスター：5 **単位数：**2

担当教員：原 塑

コード：LB55501, **科目ナンバリング：**LHM-PHI314J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：メディアと情報倫理

2. Course Title (授業題目) : Media and Information Ethics

3. 授業の目的と概要：ソーシャルメディアは、人々のネットワークを拡大する情報インフラとして現代における社会生活の基盤をなしている。しかし、そこで交換される情報や、形成される人間関係は、利用者をしばしば傷つけ、人々の間で相互不信を増す働きをもつ。この現状を理解し、対応策を考察することは情報倫理学にとって重要な課題である。この授業では、この目的を果たすために、SNS に関する認識論、倫理学上の文献を講読する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : Social media form the foundation of modern social life as information infrastructures that expand people's networks. However, the information exchanged and relationships formed on social media often harm users and increase mutual distrust among people. Understanding this situation and considering how to deal with it are important issues for information ethics. In this class, we will read the epistemological and ethical literature on social networking in order to fulfill this objective.

5. 学習の到達目標：マスメディアや SNS などの情報メディアの特性を理解する。

マスメディアや SNS などの情報メディアの認識論的、倫理的課題を理解する。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : To understand the characteristics of information media such as mass media and SNS.

To understand the epistemological and ethical issues of information media such as mass media and SNS.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

SNS の認識論や情報倫理に関わる論文と書籍を読む。授業の構成は以下の通り。

第一回 イントロダクション

第二回～第十五回 文献講読

8. 成績評価方法：

授業に出席し、訳読やレジュメを担当する (60%)。期末レポートを提出する (40%)。

9. 教科書および参考書：

授業時に配布する。

10. 授業時間外学習：授業時に読む文献にあらかじめ目を通しておいていただきたい。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし